Japanese Association of Educational Psychology

広　報

依田新先生のご功績を偲んで

依田　新先生は前々日の午後少し体調を崩され，ご自宅でご静養になっておられたところ，急に病状が悪化されて，昭和62年5月11日午後4時34分に呼吸不全のため永遠の眠りにつかれました。先生は高校生時代に病気のため休学なさるなど，どちらかと申せば蒲柳の質でいらっしゃいましたが，節制よろしきを得て，81歳の天寿を全うされました。ここに門下生の一人として，謹んで哀悼の意を表し，先生のご功績を偲びたいと思います。

先生は明治38年9月30日，東京麻布にお生れになり，東京府立第一中学校，第八高等学校を経て，昭和4年東京帝国大学文学部心理学科をご卒業になりました。ご卒業と同時に開学したばかりの東京文理科大学の助手に採用され，小野島右左雄助教授と共に研究室の創設に当たられました。

昭和12年8月，東京高等師範学校講師に迎えられ，13年4月から23年6月まで教授として在任されました。その間，太平洋戦争末期には城戸幡太郎先生を代表者とする教育科学研究会に対する弾圧に関係して，6ヵ月間留置され，釈放後も戦争終結の頃まで職を失われるという苦難に耐えられました。

しかし，戦後の先生のご活躍は目覚ましく，心理学発展の基礎固めに大きな貢献を果たされました。とくに教育心理学の今日の盛況は昭和20年代に依田先生をはじめとする諸先達が築かれた土台の上に発展した結果と申しても過言ではないと思います。

先生は23年から東京文理科大学（後に東京教育大学と改称），名古屋大学，東京大学の教授を歴任されましたが，大学が先生を手離そうとしないため，長期間にわたって，これらの大学を併任することを余儀なくされました。

41年東京大学を停年退官後，日本女子大学教授を，さらに49年から愛知学院大学教授をお勤めになった先生は55年にご退職の後は絵筆をとられるなど悠々自適のご生活に入られました。

50年間に及ぶ長い教職歴を通じて，先生は教育心理学，青年心理学，性格心理学の3つの領域において研究と教育にご尽力になりました。中学1年生の頃，校友会誌に作文が入選したことからも知られるように，先生は優れた文才をおもちになり，多数の著書・論文を発表されました。それら多彩なご業績は新しい研究分野を開拓し今日でも輝きを失っていませんが，いずれも先生が一貫して追究された人間理解の心理学に繋がっていると申せましょう。

先生は大学生時代に人間不在の心理学に失望され，同級生の正木正先生と人間探究の道を志されました。両先生の共著“性格心理学”はその大きな成果でありますが，正木先生の没後に出版された選集に依田先生が寄せられた“正木正における「人間の探究」――正木・性格心理学の系譜”は先生が人間理解とはいかなるものであるかを身をもってお示しになった論文であると考えられます。

先生の学風は，初め類型学的方法論に拠っておられましたが，日記や質問紙によって人間の内面的世界へ迫る方法への疑問から，表現された内容ばかりでなく，表現行動を重視するG.W.オルポートに対し同時代人としての共感をお示しになるようになりました。

教育者としての先生は，学生や若手研究者を愛され，その育成に力を注がれました。所属や経歴にとらわれず人材を起用する広い度量と，新しい知識を若輩からでも吸収しようとする謙虚な探究的態度は先生に接する人すべてに深い敬慕の念を抱かせました。

このような研究・教育上のご貢献に加えて，先生は名古屋大学と東京大学の両大学で教育学部長を，また日本女子大学では家政学部長を務められ，大学運営にも大きな足跡を残されました。とくに，名古屋大学では4年間にわたり創設期の学部づくりにご尽力になりました。

また，学会に関しては，日本教育心理学会の前身である日本教育心理学協会の創立に参画されて以来，25年間も理事をお務めになり，その間8年間は理事長の重責を担われました。日本心理学会においても20年間理事の任にあり，2年間は理事長を務められました。この2年間は日本心理学会と日本教育心理学会の両学会の理事長を兼ねるという前例のない大任を果たされたのでありますが，この一事をもってしても先生の人望がいかに高いかを知ることができるでしょう。そのご貢献に対し両学会はそれぞれ名誉会員に推戴しております。

先生のご功績は以上述べたことに尽きるものではありませんが，いまは先生のご遺徳を偲びつつ，遠く蓼科から八ツ岳連峰を見晴らす父祖伝来のご墓所に安らかに眠られる先生のご冥福を謹んでお祈り申しあげる次第であ

NII-Electronic Library Service

Japanese Association of Educational Psychology

りま す。

昭和62年9月　　肥田野　直

（放送大学教授，東京大学名誉教授）

略　歴

明治38年9月30日	東京麻布にて誕生
大正11年3月	東京府立第一中学校4年修了
15年3月	第八高等学校文科卒業
昭和4年3月	東京帝国大学文学部心理学科卒業
4年4月～12年8月	東京文理科大学助手
12年8月～13年3月	東京高等師範学校講師
13年3月～23年6月	同校教授
23年6月～26年5月	東京文理科大学（24年5月から東京教育大学と改称）教授
26年5月～31年4月	名古屋大学教授
26年5月～29年12月	同教育学部長併任
26年5月～33年3月	東京教育大学教授併任
31年5月～41年3月	東京大学教育学部教授
31年5月～34年3月	名古屋大学教授併任
38年10月～40年3月	東京大学教育学部長併任
39年10月～47年10月	日本教育心理学会理事長
40年7月～42年7月	日本心理学会理事長
41年4月～49年3月	日本女子大学家政学部教授
43年4月～45年3月	同家政学部長併任
49年4月～55年3月	愛知学院大学文学部教授
51年4月	勲二等瑞宝章受章
53年10月	日本心理学会名誉会員
57年11月	日本教育心理学会名誉会員
62年5月11日午後4時34分	逝去
	従三位に叙せられる

主要著・編著書

著　書

1	性格心理学（正木正と共著）	1937	刀江書院
2	児童観と児童研究	1940	巌松堂
3	新教育と児童心理	1949	壮文社
4	青年の心理	1950	培風館
5	性格心理学（正木正と共著）	1951	同学社
6	心理学入門	1957	社会思想研究会
7	教育心理学入門	1960	有斐閣
8	青年心理学	1963	培風館
9	仮面	1966	形成社（非売品）
10	性格心理学	1968	金子書房
11	人間理解の心理学	1982	金子書房

編著書・監修書

1	児童発達	1957	国土社
2	心理学事典（共編）	1957	平凡社
3	家族の心理	1958	培風館
4	児童心理学	1961	東京大学出版会
5	テレビの児童に及ぼす影響	1964	東京大学出版会
6	現代青年の人格形成の研究	1967	金子書房
7	教育心理学新辞典（共編）	1969	金子書房
8	現代青年心理学講座（全7巻 共編）	1975	金子書房
9	新・教育心理学事典（監修）	1977	金子書房
10	新版・心理学事典（共同監修）	1981	平凡社

会務報告

お　知　ら　せ

このたび，本学会事務局に直通電話が新設されました。以後事務局への連絡はこの番号をご使用下さい。

(03) 818—1534

常任理事会

7月4日（土）1時30分～4時〔学士会分館〕

芝理事長，藤原，福沢，野呂，坂野，下山，辰野，横山各常任理事，井上事務局長，纐纈，松崎両嘱託出席。

1）第14期学術会議会員候補者ならびに推薦人の選出について。

標記について選出方法を検討した。その結果，今

NII-Electronic Library Service